

都屋の始まり

古堅 太次郎 (1910・M43) 字都屋 (01 : 02)

あんとう、昔^{んかし} えやー、本^{ふんとー} 当^{とやー} や都屋^{とやー} やあらん、
座^ざ 喜^き 味^み ぬしじやたるふーじーやいぎさんよー。あんし
がな^{しえんしよー}、くぬ 戦^{せん} 争^{しよー} うりっし、な^{すーせん} くぬ終^{しん} 戦^{せん} なたぐ
とう、都^{とやー} 屋^{あぎ} とうしつ 字^{あぎ} なとーるばーよーやー。

あんとう、昔^{んかし} ぬ^{うんま} 其^{とやー} 処^{とやー} にかい、うぬ都^{とやー} 屋^{とやー} にかい、
一^{いちばん} 番^{みーやー} めんそーちやしえー新^{あはぐん} 屋^{あはぐん} とう阿^あ 波^は 根^{こん} とう、うり
から古^{ふるぎん} 堅^{いりしまぶく} とうやー西^{とやー} 島^{とやー} 袋^{とやー} んり、うっさめんしえーた
んでい。あんとう、うっさからくぬ都^{とやー} 屋^{とやー}、都^{とやー} 屋^{とやー} やな
一^{ひる} 広^{はんぶの} がとーるしじなとーぬばーてー。あんとう、半^{はん} 分^{ぶの}
おな^{うんがた}、私^{とやー} 達^{ぶらく} あくぬ都^{とやー} 屋^{とやー} ぬ部^{ふるぎん} 落^{うー} お古^{とやー} 堅^{とやー} ぬ多^{とやー} さるば
一。

あんさーに、糸^{いとまん} 満^{まん} からん寄^{きりゆう} 留^{りゆう} すい、しーから本^{むとうぶ} 部^ぶ
からん何^ぬ んりがー、名^な 護^ぐ からん寄^{きりゆう} 留^{りゆう} するばー、ブーマ
ーヤーんち前^{めーかにく} 兼^あ 久^あ ぬ、んち在^あ てーぐとう。うぬしんか
一^{きりゆうみん} 寄^{ぬく} 留^{むる} 民^{ほうぼう} やしが、な^{きりゆうみん} 残^{とやー} いしんかー全^{とやー} 員^{ぶらく} な一^{とやー} 方^{ぶらく} 々^{ぶらく} か
らぬ寄^{きりゆうみん} 留^{とやー} 民^{とやー} やてーぎさんよー。あんさ、都^{とやー} 屋^{とやー} 部^{とやー} 落^{とやー} お、
今^{なま} な一^{ひやくよんじゆうよんけん} 百^{ひやくよんじゆうよんけん} 四^{ひやくよんじゆうよんけん} 十^{ひやくよんじゆうよんけん} 軒^{ひやくよんじゆうよんけん} がら一^{ひやくよんじゆうよんけん} なとーるばー。

【共通語訳】

戦前までは、都屋は字座喜味の一部だったんだがね。
戦後（1946年）に、都屋として一つの字になったん
だよ。

昔、都屋に先にいらしたのは新屋と阿波根、それか
ら古堅と西島袋だったそう。その人たちから都屋は
広がっていったということさ。それで、都屋は古堅姓
が多いんだよ。

それから、糸満からも寄留するし、本部や名護から
も寄留するし、（恩納村）前兼久にあったブーマーヤ
ーという家から寄留した人たちもいた。そうして、各
地からの寄留民がやってきたそうだよ。そのようにし
て、都屋の部落は今ではもう百四十四軒にもなってい
るわけだよ。